

オレンジリングで笑顔をつなごう!!

【問合せ】
 福祉課 ☎ 766 - 8701
 地域包括支援センター
 ☎ 764 - 5812



特派員も受講しました!

「認知症サポーター養成講座」

先生たちもサポーターの仲間入り!
 ～猪名川保育園職員～

まずは講話で認知症への理解を深めたところで、認知症の人との家庭でのやりとりを寸劇で行います。どんな言い方や態度を取ればいいのか、みんなで考えました。

講座終了後、オレンジリングを受け取って、晴れてサポーターに!



授業で養成講座を受講
 ～六瀬中学校2年生～

生徒の約半数が祖父母と同居しているとのこと。受講後、オレンジリングを手にした生徒たちからは「もし、自分の家族が認知症になったら支えてあげたい」「これからは、困っている認知症の人がいたら、声をかけたい」と、やさしく心強い声を聞くことができました。

中学生も心強いサポーター!



家でのやりとりを実践!

地域で取り組みました
 「認知症徘徊対応・捜索訓練」
 ～中谷中学校区～

認知症の人は、外出した際に家や目的地にたどり着けず、遠くまで行ってしまふことも。身近な私たちがそれに気づき対応することで、トラブルを未然に防ぐことができます。

この日は「出かけて帰れなくなった人を自治会館まで連れて帰る」という課題で、屋外で捜索訓練を行いました。



声かけポイントをグループで確認して、いざ訓練!



ビックリさせないように前から笑顔で声をかけるのも大切!

実際にやってみると、認知症役の人はなかなか心を開いてくれず大変!



認知症の人への声かけポイント

- はっきり
- やさしく
- ゆっくり
- みじかく

キャラバン・メイトのみなさんに教わりました

編集後記

特派員も受講して、サポーターになるのは難しいことではないと感じました。この先、助けてもらうのは自分や家族かもしれないと思うと、今自分ができることをやってみようと思います。「お互い様」の気持ちでオレンジリングの輪が町に広がれば、誰にとっても住みやすい町になりますね。みなさん、ぜひ認知症サポーター養成講座を受けてみませんか?

認知症ってなに?

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりしたことから様々な障害が起こり、生活に支障が出ている状態のことを指します。

主な症状として、もの忘れや自分がどこにいるかわからず道に迷う、などがあります。

超高齢社会の日本では、2025年には全国で認知症の人が約700万人、65歳以上の5人に1人が認知症になると言われています。(厚生労働省平成27年発表)

認知症サポーターとは

認知症を正しく理解し、地域の認知症の人やその家族がお困りの時に声をかけたり、見守ったりします。また、相談があれば地域包括支援センター(高齢者の総合相談機関)などを紹介します。何か特別なことをするのではなく、各自ができる範囲で支援します。

町では平成20年にサポーターの養成が始まり、平成29年1月末現在2,454人(講座受講延べ人数)のサポーターが誕生しています。

※厚生労働省は平成17年4月から「認知症サポーターキャラバン事業」を展開しており、全国でサポーターを増やし、安心して暮らせるまちをみんなでつくっていくことを目指しています。



認知症サポーターになるには

10人程度の受講者がいれば、キャラバン・メイトが行う約90分の「認知症サポーター養成講座」を受けられます。受講後に「認知症サポーター」となり、オレンジリングを受け取ります。

今年度には、町内各ショッピングセンターや薬局の従業員なども研修として受講されました。

キャラバン・メイトとは

所定の研修を受講し、全国キャラバン・メイト連絡協議会に登録されている人たちで、「認知症サポーター養成講座」を開催し、講師として活動しています。

町内の認知症サポーター養成講座で講師を務める「猪名川町キャラバン・メイト」のみなさん。講座では寸劇なども交えて受講者にわかりやすく教えてくださいました。「認知症の人は、最初に本人が症状に気づき、不安や苦しみ、悲しみを感ずていることもあります。周囲が正しい理解を深めることが大切です。」と話していたのが印象的でした。



豊作と無病を願い・・・



▲1月6日、民田八幡神社で「三矢の儀式」が行われました。これは、江戸時代初期に始まり、新年に子どもの元服を祝うとともに魔よけ的を行う儀式で、町指定無形民俗文化財に指定されています。地域の子どもの減少するなか、本来の元服の年齢15歳の該当者がいない年には、大人が代役を務め、この伝統ある行事を継承しています。

※「きらっと☆いながわ」最新号で紹介！→



みんなで笑って一年の幕開け！



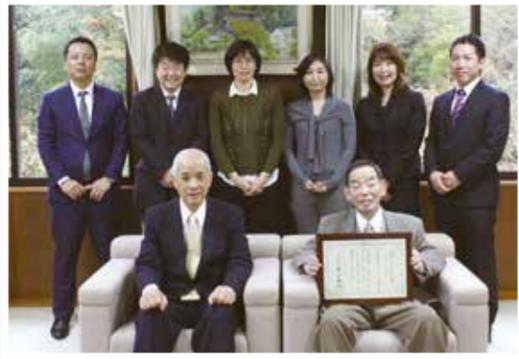
▲1月13日、社会福祉会館でシルバー人材センターの親子あそびのひろばが開かれました。参加した8組21人の親子はお正月にまつわるお話のあと、すごろくと福笑いで遊び、賑やかで楽しい一日を過ごしました。

未来に向かって羽ばたこう！



▲1月9日、文化体育館で成人式を開催し、313人の新成人が出席しました。会場では、懐かしい友との再会を喜ぶ笑顔であふれました。式典では、肥爪 智紀さん、和田 萌々花さんが「この20年間学んだことはこれからの人生の基盤となり、一生の心の支えになります。この大切な経験を持って、これからの人生において大きく飛躍していくことを誓います。」と新成人を代表し決意を述べました。

地域みんなと一緒に取り組んだ成果です



▲12月27日、松尾台校区まちづくり協議会が「第18回人間サイズのまちづくり賞 まちづくり活動部門」県知事賞受賞の報告をしました。

これは、同まち協が取り組む介護予防（いきいき）体操をはじめ、住民運動会やふれあい喫茶事業が、コミュニティの形成や誰もが自由に参加できる地域の交流の場と居場所づくりに貢献していると評価されたものです。



今年一年の防災意識を高める！

ふおとにゅ〜す



▲1月8日、文化体育館と総合公園で「平成29年猪名川町消防出初式」を行いました。

第1部の式典で、表彰伝達などを行った後、「猪名川保育園幼年消防クラブ」による太鼓演奏を披露しました。第2部では雨の中、消防団によるポンプ操法訓練や一斉放水、消防職員による消防演技を行い、集まった約150人の観客は、普段は見られないたくましい姿に大満足の様子でした。

多田銀銅山を科学で解き明かせ



▲1月7日、悠久の館で体験学習会「鉱石の元素を調べよう」を開催しました。参加した6人の小中学生は鉱山の成り立ちや坑道の調査結果を学習した後、実際に多田銀銅山から発掘された石をスケッチしたり、

電子顕微鏡や蛍光X線分析装置を使って分析しました。銅を始め様々な成分が含まれている結果に、参加者は興奮を隠せない様子でした。

▶1月8日、男子第49回・女子第30回阪神地区都市対抗駅伝競走大会が松尾台周辺で行われました。あいにくの雨模様でしたが、各市町を代表する選手たちは全力でコースを走り、タスキをつなぎました。

猪名川町は男子14チーム中4位、女子13チーム中7位と健闘し、男子第3区で吉原 篤さん・女子第4区で小原 ののかさんが区間賞をとりました。

今年も健康でいられますように



▲1月14日、楊津小学校で今年一年の無病息災を願う「とんど焼き」を行いました。校庭の中心に組まれたやぐらに火がつくと、子どもたちから歓声が上がりました。

また、スポーツクラブ21やないづや同校PTAの協力で、けん玉やコマ回しなどの「昔遊び」や餅つきも行い、子どもたちは、正月の伝統行事を楽しみました。



タスキをつないで駆け抜ける！

